

自己評価・学校関係者評価書

静岡田町幼稚園

1. 幼稚園の教育目標

- 健康で明るい子
- 自主性のある子
- 情操豊かな子

2. 本年度の重点目標(学校評価の具体的な課題)

- **子ども一人ひとりのよさと可能性を伸ばす教育——A**
(一人ひとりのよさに気付くよう努力する)
- 連絡ノートや個人記録を書くことにより、一人ひとりのよさに気付けるよう、考えながら保育ができていた。しかし、子どもによっては直したいところだけが目につきやすいので、その子のよさに気付けるよう意識していきたい。
- 消極的な子や少し気になる子の得意なことを見つけてクラス全体に伝えたり、その子が主体となる活動を行ったり、教師だけでなく、子ども達自身も友達の良いところや頑張っているところを見つけて、それを活動や遊びにつなげられるようになった。引き続き努力していきたい。
- 年度当初一人ひとり1年でどこを伸ばしていきたいか自分なりに考え、1学期が終わった時点(夏休み)で、個人記録を記入しながら一人ひとりの姿をとらえた。また、成長に合わせてねらいを変えたりと意識して保育することができた。教師が思うその子のよさと、他の先生から見てよさは違うこともあるので、いろいろな先生と子どもの情報を共有できるようにしていきたい。
- 子どもの変化に気付けるよう気を配ったり、コミュニケーションを図ったりしてきた。そして良いことはたくさん褒め、危険なことや良くないことをした子にはなぜダメだったのかななどを具体的に分かりやすく伝えるようにしている。
- 広い視野を持って一人ひとりを見ることができたが、自分に余裕がない時は疎かになってしまう。
- 4月からまずは自分のクラスの子どものたちのことを良く知り、一人ひとりの良いところを見つけるように努力した。
- 子ども一人ひとりとしっかり向き合い、誠意をもって接することができるよう心がけている。子どもが常に主体となり、個々の成長を見逃さない様にするため、子どもに寄り添い具体的に褒めていくよう心がけた。
- 一人ひとりの頑張りや好きなことに取り組む姿などを褒めることで自信を持つことができるようにしてきた。やりたいと思ったことを止めず、一緒にやってみたり時には子ども達が自由に組み組んだりすることができるように過ごすことを心掛けた。
- 「～できるようにしなくては」「やめさせなくては」と考えると、違った方向に指導がいつてしまうことがあったので、その子の良い所に目を向けるよう修正していく努力をした。

1. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由	関係者評価	
			評価	理由
I.保育の計画性	B	・週案を1カ月単位にしたことで、週と週のつながりを意識して計画を立てられた。教育課程を反映して月案を作り、月案をもとに週案を立てている。常に考え続けることは難しいが、よりよい保育を行うために振り返りをきちんとしていきたい。 ・天候や子ども達の様子などを考慮した環境構成をしていきたい。また、余裕をもった計画を立てていきたい。 ・学年間で話し合いながら、子どもの姿に合わせて計画を立て実行できている。評価・反省の面で、なかなか次に生かせないところがあったりマンネリ化しやすくなるため、反省を次や他に生かす意識を職員で高めていきたい。 ・年少ということで4月からどんなことを身につけたいのか、学年で話し合った上、保育を計画した。1学期はとにかく園に慣れ楽しいと思えるよう、簡単	A	・コロナ禍の中で計画通りの保育の実施は厳しい局面もあり、柔軟さをもって対応すれば良い。まずは園児の健康管理を優先すべきである。 ・「子どもの姿をもとに計画を立てる幼稚園の取組みは、小学校も学ぶ点が多い」と指導を受けました。長期、短期と様々であるが、教師も子どもも見通しをもって園の生活を送ることができるようにすることは、大きな力だと思う。引き続きお願いしたい。

	<p>で楽しめる活動をたくさんした。どの活動も子どもたちにどんな力がついてほしいのか、ねらいをもって取り組むようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスや学年の子どもの姿に合わせながら、無理なくその都度、楽しい保育ができる様心がけている。昨年に続き、コロナ禍ではあったが、職員間での話し合いや計画のもと、少しずつ行事が復活でき、子どもたちも楽しい経験ができたと思う。自分の保育ばかりにとらわれず、他の先生からの学びを取り入れながら、自分自身努力していきけるようにしたい。常に子ども一人ひとりの育ちを願い、学年に合わせた10の姿について考え、理解を深めていける様心がけてきた。 ・週案を立てる際には、週のねらいに対する留意点を細かく記入し意識して過ごせるようにしてきた。おもちゃの置き方など固定の場所になってしまわないよう変えるようにしてきたが、遊び込めるように用具を用意したり、新しい遊びを提案したりすることができたら良かったと思う。できなかったことや反省点などは次週にいかすことができるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの健康状況や天候を考慮しながら大変だったと思う。コロナの規制が緩和されつつある中、先生方の入念な準備のおかげで行事が再開できてとても嬉しく思う。 ・コロナ前の行事が復活できるよう期待しています。(お泊り保育、ハロウィンフェスティバルなど)
<p>Ⅱ.保育の在り方、 幼児への対応</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊び方や生活の仕方など、危険がないよう見たり話をしたりしている。子どもと仲良くなりつつも、言葉づかいなどを意識して接するようにしている。保育者同士の協力は今後も全員で意識していきたい。 ・子どもたちへの関わりはしっかりできていると思うが、保育者同士の協力、連携が学年間だけでなく、他学年や全体とできるようにしていきたい。お互い助け合えるような関係、雰囲気作りなど行えるよう努力していきたい。 ・子どもと丁寧に関わることを心掛け保育してきた。コロナ禍ということもあり、子どもの体調の変化に敏感になりすぎてしまっているところもあるため、視診のタイミングや、体調不良の子がいた場合の対応の仕方等、もう一度職員間で意思統一していきたい。 ・しばらく登園を渋る子が見られた。子どもの様子に合わせて職員皆で声を掛けたり、担任も積極的に子どもと関わり寄り添うようにしたので、良くなってきた。学年でも子供の様子を話したり困った時などの対応もしやすい環境であった。 ・学年間での連携、協力の姿がよく見られ、担任以外の先生がとてもよく気付いてくれたり学年で統一することなど話し合う機会もあって良かった。 ・命を預かる場であるので、常に危険なことをしていないか、事故につながるようなことはないか、周りや全体をみて行動するようにした。しかし、予想できない動きをすることがあるので、今後も十分気を付けてみていきたい。常に保育者の目があるように他の先生と連携している。 ・子ども一人ひとりを大切にできる様、その子に合った援助の仕方考え過ごせるよう努力している。ありのままの子どもの姿を受け止めながら、適切な指導ができるよう、他の教師と共に子どもの気持ちを読み取る努力をしたり、接し方や援助の方法を考え、連携をはかった。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の通園にあたっては、保護者に対して十分な健康観察をした上で通園させるよう周知することが大切である。 ・一人ひとりの子どもへの声かけ、接し方など寄り添う姿勢は十分感じる。困りごと、苦情等は自分で抱えることのないように職員間で「報連相」してほしい。 ・様々な子どもが園に通うようになり、個々への対応は極めて難しい時代になったが、園では園長先生はじめ、多くの先生が一人の子に関わっていると思う。どの先生に聞いても、我が子のことを知ってもらえていれば安心だと思う。親の期待も大きいだけ苦労も多いと思うが頑張ってもらいたい。 ・いつも子どもの気持ちを大切にしている先生方の温かい目線を感じる。“お客さん”として訪問した時も、数人の園児たちがハイタッチをしてくれて日頃の園のアウトホームさを感じる。 ・感染症、熱中症、園バス置き去りなど気にかける点が多いと思うが、今後も安心安全で先生方、子どもたちが楽しく過ごせる園であってほしい。いつも子供のことを

	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの行動を予測し、配慮するようにしてきた。全体に伝える中でも、一人ひとりに合わせた援助をするよう心掛けるようにした。保育者同士も保育のことや子どものことなど気軽に相談し合い、助け合えるようにしていきたい。 パート教諭たちの力を借りながら全員で連携し合えた。 	<p>考え、接する姿は保護者も見習うべき姿である。</p>
<p>Ⅲ.教師としての資質や能力・良識・適正</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師としての知識はまだまだで、日々の保育に手一杯でなかなか新しい知識を身につけることは難しいが、逆に日々の保育で学ぶことも多い。社会人として、教師として自分の役割や言動に責任を持っている。自分のことだけで精一杯になることがあるため、まわりを感じ取れるようにしたい。 自分自身も子ども達と一緒に成長できるよう意識して保育を行っている。組織の一員としてのあり方、まわりを感じ取れる感性などは、気付けなかったりすることがあるため、自分から積極的に行えるようにしていきたい。 得た知識や、やってよかった保育など、もっと周りに発信したり、他の人の保育にも興味を持ちたい。保育は楽しい!!しかし、行事に向けた活動や製作が多く、プラスでの活動がなかなかできなかった。やってみたいと思ったことは、進んでできるような環境づくりを心掛けていきたい。 保育雑誌を読んだり、研修を受けたりすることで、日々の保育に役に立てることができている。子どもと一緒に過ごしたり、遊んだりする時間や保育はとても楽しいが、やはり悩みもある。保育の方法、やり方に間違いや正解もないが、日々試行錯誤しながら学んでいきたい。 まだまだ自分には周りが見えていなかったり周りの人たちが今何を必要としているのかわかっていない時が合ったりするので、見通しをもってその時何が必要か、どんなことをしたら他の先生が助かるのか考えたい。 保育の仕事の楽しさを感じることができた1、2学期だった。しかし、保育以外の部分で悩むこともあったが、周りの先生方にたくさん助けってもらったり、気をつかってもらったりとありがたいことも多かった。その都度きちんとお礼を伝えるよう心がけた。 教師同士の連携をとり、子ども達に楽しい経験ができるよう工夫し、生活していけるよう、心がけている。計画性を持って仕事ができるように保育している。 子どもの前に立つ教師としてどうあるべきか、また、組織の一員としてどのように動くといいのか、考えながら日々過ごすようにしてきた。 やるべきことは努力しているが、力が及ばないところもあると思う。ただ自分にできることは、頑張っている。毎日の保育は、悩むことも多々あるが、とても楽しく、小さな成長もとても嬉しく、それにやりがいを感じる。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> まずは先生たち一人ひとりがたのしんで仕事に取り組んでほしい。そしていつも笑顔を忘れずに。保育に対する前向きな姿勢は十分感じている。先生間の連携もしっかりとれている。 コロナ禍になり、研修の機会も減ってしまっているかと思う。また、自身の資質能力を伸ばすには「自ら学び続ける」ことが大切だと言われている。保育雑誌を読んだり、先生方が交流したり…という日常の学びが、保育に生きているのではないかと思われる。オンラインでの研修が小中では主流になってきた。そのような工夫も幼稚園教育の場でもされるといいと思う。(小中は来年度から50代以上の研修を強化するそうです。) 遊びを通して成長する子どもの遊びから様々なことを読み取る努力を感じる。クラス、学年の垣根を越え先生同士が協力し合っていて素晴らしい。 先生同士、話し合っているのをよく見かける。情報を交換、共有しアドバイスしたり、フォローしながら保育してほしい。仕事、プライベートのバランスをとり、体調管理に心掛けほしい。園児、保護者に笑顔で接し、時には相談にも乗ってくださり、感謝している。
<p>Ⅳ.保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ということもあり、保護者との交流が難しくなっている。特にバス通園の方と会うことが少ない。連絡ノートやHPでなるべく発信しているが一方的になってしまうことも多い。今 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において保護者との会話不足分を補うべく、連絡ノートの活用し、ひと工夫必要かもしれない。(保護者から連絡ノートを活用して

	<p style="text-align: center;">A</p> <p>後の課題として職員間で話し合いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートは意識して書いているが、直接会ったときも話しかけるようにしている。 保護者の方とは、お迎えの時や参観の時など少しでも時間がある時にはクラスでの様子、良いところやエピソードなどを伝えられるようにした。連絡ノートでは、うまく伝わりにくい場合は、なるべく直接伝えるようにした。 連絡ノートを利用し、子どもたちの姿をなるべく伝えていくよう努力している。また教師の考えや保護者との共通理解ができる様、参観会や懇談会等も少しずつ増やしていけるといいと感じる。時折、保護者との対応の難しさを感じることもあるが、丁寧に対応し、問題は個人でとどめず、上司に相談、報告しながら、解決できるように努力している。HP を見ている保護者の温度差を感じるがあった。クラスの様子をあげても見てもらえないのは残念なので、HP の存在をもっと保護者に伝えていく必要があると感じた。 バス通園などでなかなか会えない保護者には連絡ノートなどを利用して（月に1回だけでなく）様子を伝えられるといいが難しいと感じるときもある。保護者からの要望、クレームなどはすぐ園長に報告し、一人で対応しないようにしてきた。 小さなことでも、気が付いたことはすぐ話を聞いたり、連絡を丁寧に取るなどしている。どの保護者に対しても、平等に話すよう心掛けている。些細なことでも間違いなどがあった時は、すぐに謝罪し、同じことを繰り返さないよう注意している。 	<p style="text-align: center;">A</p> <p>の報告はあるのか？）最近では保護者のみならず、要望、クレーム等が一方的に寄せられる事が多い中、個人で悩むことがないよう園長等に報告、相談してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園で導入しているアプリはどの程度使われているのか？小学校は今、ほぼペーパーレスで対応しているが、とても有効だ。欠席連絡はアプリで行っているが、電話だとなかなかコミュニケーションが取れない保護者もメッセージだと色々なことを伝えてくる、という良い例もある。今後の対応の一つの型だと思ふ。 以前からの連絡ノートに加え、スマホの活用が更に増えている近年ですが、先生方がなるべく保護者と直接会って様子を伝えてくれようとする熱意がありがたい。いつも誠実で丁寧な対応をしてきている。 先生と保護者、保護者同士も会って話す機会が減り、残念だ。連絡ノート、ホームページの情報発信を更に充実させてほしい。園はもう少し保護者に頼ってもいいと思ふ。園外保育、プール見守り、その他の行事の手伝いなど、お手伝い隊をも活用してほしい。
<p>V.地域の自然や社会との関わり</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼小のレベルの違いを感じる点もあるため、園の保育の内容を考えながら過ごせるようにしていきたい。今年は小学校の参観に行くなどして幼小の連携に関心を持って行動できた。地域の公園などを利用する機会がほとんど作れなかった。 今年度は安倍川への散歩があまりできなかった。地域の自然との関わりを増やしていきたい。 就学時健診後から、子ども達が小学校に対して今まで以上に期待を持ち、そして逆に不安を感じている子もいる。もっとスムーズに幼小が繋がっていけば良いと思っはいるが、連携が難しいのが現状である。 年長以外の学年でも他校や地域に、もう少し目を向けていきたい。安倍川の自然はもっともっと活用していきたい。 安倍川へは縦割り保育で出かけることができ、虫取り等、学年の違う子ども同士の関わりもでき、子どもたちは楽しい経験ができた。良い場所も沢山あるので、今後ももっと活用していきたい。コロナ禍で地域との関わりや近隣校との交流も制限されてしまうが、安倍中生や静商生との交流ができた事等、様々な人との交流の大切さを改めて感じた。 散歩へ行く、近くの公園へ遊びに行くなどもっと積極的に利用していきたい 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあって地域自治会としての行事が殆ど開催できず、園児たちとの「ふれあい」の機会が持てず、残念な一年であった。地域内の公園、安倍川親水公園等も大いに活用してほしい。 コロナ5類引き下げが検討されている。そうなったら、ぜひ田町小へ出かけてほしい。 地域に溶け込み、地域の方に愛される園といつも感じる。小中高生との交流やふれあい広場参加など、今後も楽しい、お互いの為になる連携を続けていってほしい。 小・中・高校との連携、交流を期待している。安倍川、安倍川橋（100年）はもっと活用してほしい。近隣への公園、お店、公共施設に出かけ、地域の方々とも交流できると良い。

		<p>い。小学校の公開授業の参観にはこれからは積極的に参加したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 田町公園など園外に散歩に出た際、出会った方には挨拶をするようにしている(子どもたちと)。未就園児の会で園に遊びに来た親子もできるだけ明るく声を掛けるようにした。 	
VI.研修と研究	B	<ul style="list-style-type: none"> 参加できる研修には参加したり、研修に参加した先生の話の聞いたりしている。今年は気になる子の対応についての本を新たに購入したが、中々読み進められないので、買って満足せずしっかりと読んで研修としたい。 研修や小学校公開授業に積極的に参加できた。 今年度、あらゆる専門的な知識を身につける機会があり、いろいろな視点から保育を考え直すことができた。今後は周りにも伝えていきたい。 園外研修で他園の先生たちと保育について考えたり、話し合ったりできて、自分の保育感を広げることができた。 日々の保育に精一杯で+αのことができるよう努力したい。 興味ある研修会には、特に積極的に参加するよう心がけた。学ぶだけでなく、それを常に頭におき、子ども達に生かせるようにしたいと思う。 興味を持ったことは調べたり、研修に参加したりしてきたが、偏りがあると感じるため、もっと積極的に研修、研究ができるといい。 色々なことを学べるよう様々な本を読むようにしている。 	A

- 積極的に自己研鑽に励んでいる姿勢に頭が下がります。頑張ってください。
- 幼小接続の観点から「身につける10の姿」を小学校も共有したいと思う。また、幼稚園の研究授業を参観したいと思う。
- 子どもたちの遊びの画像より、行動や心の読み取りなど細やかな学習がありがたい。人気だった絵本の情報交換もいいと思う。
- 今後も園内、園外研修、公開授業への参加を積極的に行い、結果をフィードバックし、日々の保育に生かしてほしい。園での教育に期待している。

2. 本年度の重点目標の総合的な評価結果

「子ども一人ひとりの良さに気付く」という重点目標を常に意識しながらどの教師も努力しているが、「可能性を伸ばす」ことには、どんな可能性があるのか、秘めているのか、探っていくことの難しさを感じる。一人の教師だけでなく、より多くの目で見たり、職員間で話し合いや連携をしたりして、可能性を伸ばす努力をしていきたい。

3. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<ul style="list-style-type: none"> 保育のあり方 保護者の支援 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での保育がここ数年続いていたが、質の高い保育につなげていくために、保育や行事の見直しを常に考え、子ども達にとって楽しい園生活となるよう考えていく。 幼稚園に対する理解や協力を得るために、連絡ノートの活用方法、ホームページの内容などについて、再度検討していく。

4. 学校関係者評価委員会からのコメント

- 田町幼稚園らしさ、特徴を充分に出して行ってほしい。
- コロナ禍で幼稚園と保護者との関わりも減ったが、保護者同士の関係性も薄くなっているなので、保護者を変えて園行事を盛り上げて行ってほしい。
- 大人が子どもの話を聞いていない事が多い。まず子どもの話を親も聞いてほしい。
- 教師自身の健康も大切である。職員同士の連携、情報の共有、相談をし合ってほしい。